

ねこへの思い

二年 内野結菜

私の祖母の家には私が生まれる前からずっと猫がいる。猫が亡くなっても気がつく新しい猫が住んでいる。私を知っている猫は今いる猫を合わせて五匹だ。今は二匹の猫がいて亡くなってしまった猫が三匹、私はこの三匹の猫をみて祖母の猫に対する気持ちがより伝わった。

一匹の猫は野良猫で病気があり、あまり触らせてくれなかった。祖母は一人で少しでも長く生きられるようにとご飯をあげたり、ずっと一緒にいた。それでも病気に勝つことはできず亡くなってしまい、猫は二匹になった。もう二匹の亡くなった猫は、「のん」と「はな」という名前だ。お母さんが高校生くらいの時からいたとよく聞く。私は、白猫の「のん」という猫が大好きだった。すごくマイペースであり走り回らず、何をしても怒らないおばあちゃん猫だった。まだ小さかった私は抱っこが怖く、初めてできたのは「のん」だった。ご飯をあげたり、一緒にお昼寝をしたり祖母の家に行くなら一番に「のん」ところへ行きたいくらい一緒にいたかった。そんな二匹もおばあちゃんの猫なので少しずつ元気がなくなっていく最終的には椅子の上に座って動く気配もなくなっていた。それを見た私は怖くなり「のん」と「はな」のことができるだけ見ないようになった。それでもずっと一緒にいたのはやっぱり祖母

だった。夜中に何回も起きて介護をしたりしていたので、寝不足になっていたがこんな状況でもずっと一緒にいれるのは猫が大好きだからだと思う。今いる猫でも同じだが、昔と違うところは年が若く子どもの猫ということ。疲れないかが一番心配だけどこれからも祖母と猫はペアみたいな関係で毎日楽しく生きてほしいと私は思っている。

祖母のねこに対する気持ちを知れたことは私に大きな影響を与えたと思う。ペットにとる行動は一つ一つ大切なものだと私は考える。その行動一つでペットに悪影響を与える可能性が十分にある。私たちには動物の気持ちなど分からない、そんな中で一緒に暮らすということはとても難しいことだ。だからこそ思いやりを忘れず感情を豊かに過ごすことが大切だと私は祖母の家にいる猫たちについて思った。